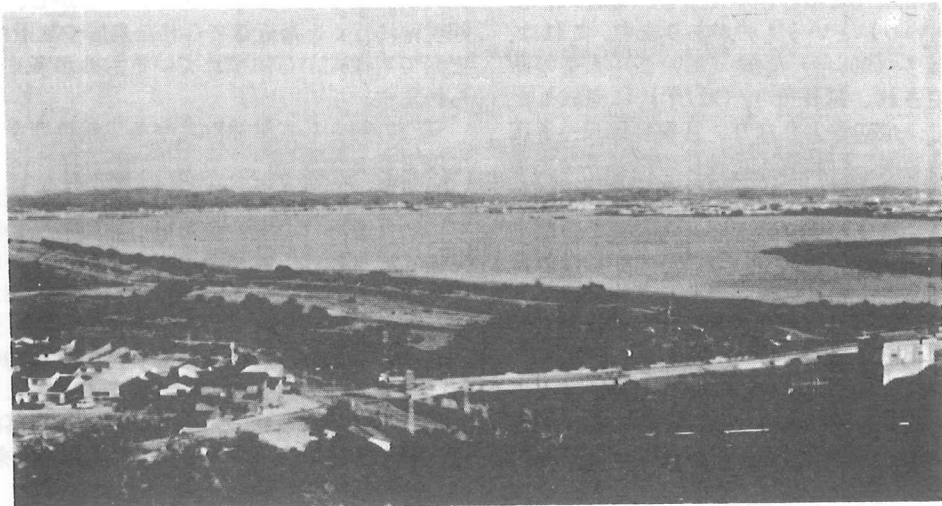


## 世界に向けて河北潟の現状を訴える

—第6回世界湖沼会議でワークショップ開催—



河北潟（調整池）全景

史上最大規模となった「第6回世界湖沼会議・霞ヶ浦'95」は10月24日から27日までつくば市と土浦市で開催され、持続可能な湖沼と貯水池の利用をめざしてさまざまな発表や議論がおこなわれました。河北潟湖沼研究所も26日におこなわれたワークショップの一会場を借りて、「河北潟および干拓地の現状と環境修復へ向けた取り組み」と題した集会を主催し、世界に向かって初めて河北潟の環境の現状を訴えました。湖沼研究所のメンバーが河北潟の干拓の影響と現状を説明し、研究所の取り組みについて紹介しました。まず最初に湖沼研究所水質浄化検討委員会の沢野伸浩氏が、現在の河北潟が未処理下水を流し続けている流域社会にとっての「下水処理場」となっていること、河北潟を現在の役割のまま利用するならそのための合意形成や管理が求められるが、それすらおこなわれていないことを紹介しました。次に同委員会の高橋久氏により河北潟ではかつて豊かであった汽水性の魚類が干拓により消滅し、現在ではブ

ルーギルなどの外来種が増えていることが、また、永坂正夫氏よりかつては沈水植物が豊富であったが、現在ではヨシなどの抽水植物だけしか見られなくなったことが報告されました。最後に大館小夜子湖沼研究所代表により、研究所が住民や行政、企業に対して河北潟の環境保全と浄化の合意形成のために取り組んできた経過について報告がおこなわれました。

水質浄化検討委員会沢野氏のコメント「案内不足のためか、ワークショップへの参加者はどの会場とも少なく、運営面での不満はあったが、とにかく、河北潟の問題を全国へ、さらには、世界へと伝えることができたのではないと思う。河北潟における問題は世界中の湖沼が直面する問題とほとんどの面で共通しており、その規模が比較的コンパクトなものであり、もし河北潟における環境の諸問題を解決することができれば、その方法論は世界中のいずれの湖沼の問題へもあてはめることができるだろう。」

## 河北潟地方の歴史Ⅱ

宮本眞晴

### 神社

本年度の当委員会のテーマ、神社について説明しましょう。

延喜格式（えんぎきやくしき、延喜式、格式ともいう）というものがあります。これは、延喜五年（905年）醍醐（だいご）天皇の命で制定され、延長五年（927年）に完成したもので、全50巻よりなり、宮中の儀式、各省の事務制度、行政儀式、神社の格式等を定めたものです。この中に記されている神社は格式が高いとされていますが、加賀郡からは十三座が記されています。これらの中には大野湊のように中古、郡界がかわり石川郡に属したのもあり、現在どこの神社か不詳のものもあります。

また現在まで文献調査により、河北潟湖岸地方の神社は現金沢市で51社、河北郡で50社の計101社を確認しました。これらの神社の系統は様々で、出雲系、諏訪（すわ）系、大和系、安曇（あづみ）系、春日系、八幡系、日枝（ひえ）山王系、渡来人系、土着系等々がありました。

資料だけではなく、現在本業の間に暇を見付けて実際に神社を訪ねています。ある神社では盤持石（ばんもちいし、昔力くらべの為に使った石）が数個おいてあり、昔の若者達が農作業の合間に行ったであろう娯楽風景が想像され楽しい気持ちになりました。神社の数が多いのですが3月までには全部訪れようと思っています。

#### 加賀郡式内社十三座

小浜、野間、三輪、賀茂、神田、下野間、郡家（ぐうけ）、須岐（すき）、野蛟（のづち）、波自加弥（はじかみ）、大野湊、笠野、野蛟

#### ●神社の様式と祭神

もともと神社は集落にいくつかあったのですが、明治初期、廃仏毀釈（はいぶつきしゃく）運動により仏教寺院境内から分けられ、明治40年頃集落に1社と統合されました。廃

仏運動を行ったのは平田神道を奉ずる森田平次（柿園）です。その結果、1社に異った性格の祭神が合祀されるようになりました。

神社には祭神により鳥居の形、社殿の建築様式が決まっています（図1）。しかし、実際現地に行くと最近建てられた鳥居や社殿は、立派でも様式からはずれているものが多く見られます。

一つの例として津幡町北中条三輪神社を見てみましょう。

北中条は旧河北郡中条村（条理制の名残からついた名称）北端の集落で旧北陸道沿いに発達しました。三輪神社はこの集落の東の山腹に建っています。明治期、国鉄北陸本線ができ参道が分断され、津幡駅構内を大きく迂回しなければならなくなりました。昭和30年代国道8号線、159号線が通ったことにより参道はまた分断され、一の鳥居だけが集落内に残りました。このような例は津幡町南中条、現金沢市利屋町等にもありました。

三輪神社の一の鳥居は脚部座付の木製の稲荷鳥居で、昭和40年代に車により両部鳥居が壊されたものが再建されました。二の鳥居は台座のある白ミカゲ製の稲荷鳥居で昭和2年に建立されたものです。これに対し、拝殿は春日造で、神殿は平入の大社造りです。それだけでなく、境内には五輪塔が数基あり、さらに越前石製の地藏堂もみられます。石川

#### 三輪神社 旧村社

河北郡津幡町北中条サの二乙

主祭神 大物主神 菊理媛神 経津主命 武甕槌神

天児屋根命 比売神 稻倉魂命

例 祭 四月十五日

境内地 四六八坪

主要建物 本殿 幣殿 拝殿 神饌所

由 緒 仁明天皇承和三年創立の延喜式内の三輪神社と伝えられる。古来、井上郷十七村の總社として仰

がれ、藩主前田家の崇敬篤く三代利常夫人の天徳院が

慶長十八年社殿を建立、翌年能を奉納。山王社、日吉

社とも称せられて来た明治四十年同字鎮座野間神社・

春日神社・今倉社を合併。

宮司 加藤治男

責任役員 岩崎利明 本多初英

石川県神社庁編「石川県神社誌」より

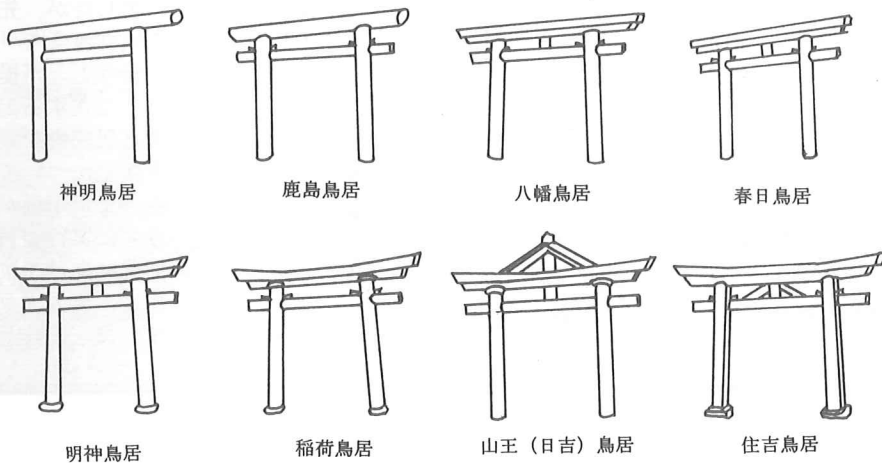
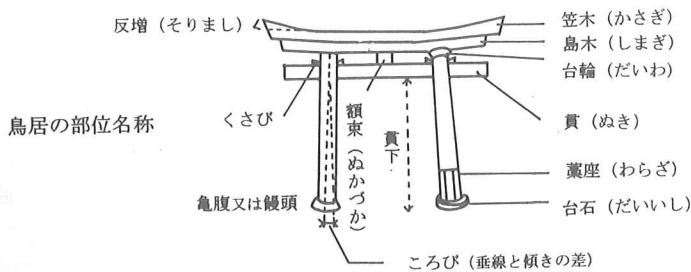


図1 鳥居の様式

県神社誌（石川県神社庁編）によると三輪神社には系統の異なる7つの主祭神が祭られています。

地藏堂の由来については、「近江の国の人日本海を航行中暴風雨にあい方向を見失って神仏に祈願したところ、天の一角に旗のぼりの様なものが見えた。一同はその方向へ進むと大根布に着くことができた。旗のぼりのようなものはこの神社の松の木であったことを知り、感謝の意味で石地藏を奉納。この松は目回り6mあったが明治27年9月27日の強風で倒れた。」といった記録が残っています。

#### ●加賀、能登の巨木遺跡

余談になりますが、その昔出雲の国を大和に譲るように大和族から迫られたとき、大国主命と息子の事代主命は承諾しましたが、もう一人の息子建御名方（たけみなかた）は承諾せず、戦ったが破れて信濃の諏訪に逃れま

した。この建御名方神と妃の八坂刀売神（やさかとめのかみ）を祀るのが諏訪神社です。出雲族は大きな建造物を作る一族で、出雲大社は古代は高さ32丈（約97m）で、平安時代でも16丈（約48m）、江戸時代では8丈（約24m）となり現在に至っています。諏訪神社は6年毎に上社（前宮、本宮）、下社（春宮、秋宮）の4社に各4本、計16本の巨木を立てる奇祭が行われることでも知られています。金沢市南新保町にチカモリ遺跡があります。ここには最大径8mの円形プランにそって十数本程の円柱が等間隔にサークル上に立てられていました。そんなサークルが数群あります。柱は栗材が使われ、断面はカマゴコ状になるように加工され、柱穴は約2mにもなります。能登真脇遺跡にも巨木遺跡があります。これらと諏訪一族との関係を考えても面白いと思います。

この他にも河北潟地方には金属を司る金山彦を祭神とした神社、火の守護神カグツチを祭神とした神社、日本でもただ1カ所香辛料を祭った波自加弥（はじかみ ショーガのこと）神社、海の民の神の住吉神社、蛭子（ひるこ、えびす）神社等々あります。当委員会では来年3月を目標として「まとめ」を編集しようと思っております。

（おわり）

参考文献 下出積与「石川県の歴史」  
学研「神道の本」  
平凡社「世界大百科事典」  
石川県神社庁「石川県神社誌」

（みやもとまさはる：郷土史研究家・宮本建設社長）

## 河北潟湖沼研究所からのお知らせ

### ●機関誌「湖沼と環境」投稿のお願い

河北潟湖沼研究所では機関誌「湖沼と環境」に掲載する原稿を募集しています。本誌は、湖沼研究所の機関誌として、友の会会員の環境保全に関する研究の発表の場と、また会員相互間の情報の場となることをめざして年1回発行します。募集する原稿の内容としては、1. 環境保全に関する研究論文や、河北潟や他の湖沼を対象として行った調査報告（水質測定データや生物目録など）、2. 環境保全や湖沼の浄化に関する意見や主張、3. 自然保護活動などの市民が取り組んでいる活動の紹介、4. 環境保全に役立つ情報（技術、イベント、講演会、書評など）などを考えていきます。本誌への投稿を望まれる方は、別に定める投稿規定をご覧ください。本誌は会員の皆様の投稿が発行の鍵を握っています。普段文章をあまり書かない方もいるかと思いますが、編集部はできるだけ投稿者との相談を密に行ないながら、建設的に誌面を作っていくと考えています。是非とも、会員の積極的なご投稿、ご協力をお願い申し上げます。（編集委員会）

### ●平成7年度（第1回）河北潟自然保護学校の修了のお知らせと次回の予告

当初の予定を変更して全6回おこなわれた

河北潟自然保護学校も、11月12日をもちまして修了しました。延べで約400人の参加をいただき、一応の成功を収めることができました。今回は初めてのことであり、連絡の遅れなどで受講者の皆様には何かとご迷惑をおかけしました。また、一部の講師の方には事務局の不手際で大変ご迷惑をおかけしました。

次回（平成8年度）も引き続き、自然保護学校を開催する予定です。詳細は「通信」の第4号で発表します。

### ●潟サミットの開催について

一部新聞でも報道されましたが、先日行われました石川県四閉鎖水域交流会で「日本海潟サミット（仮称）」を行うことが提案されました。これは日本海側に点在する潟周辺に住む住民や、潟に関係する研究者を集めて交流会を行い、潟の現状と保全について話し合おうというものです。現在まだ準備が始まったばかりですが、近いうちに実行委員会を組織して、1997年の夏の開催に向けて動き出したいと考えています。現在、協力ボランティアと協賛団体を募集しています。詳しくは湖沼研究所まで。

### 編集後記

先日、第6回世界湖沼会議霞ヶ浦セッションに参加してきました。日帰りの強行軍で数時間だけの参加でしたが、少しは湖沼会議の雰囲気を感じることができました。霞ヶ浦も少しだけ視察しましたが、河北潟と比べあまりに大きなことにびっくりしました。水は河北潟と同じに濁っていましたが、ゴミは河北潟よりも少ないように思いました。前に木場潟を訪れた時にも感じたのですが、水が濁っていても、ゴミが少ないと湖面を見ていてゆったりとした気持ちになります。河北潟を訪れるとすぐ帰りたくなってしまいますが、あまりにゴミが多いせいでしょうか。（T）。

|               |                      |
|---------------|----------------------|
| 河北潟湖沼研究所通信    | VOL. 1 NO. 3         |
| 1995年11月15日発行 |                      |
| 発行所           | 河北潟湖沼研究所             |
|               | 920-02石川県河北郡内灘町字大清水  |
|               | 302                  |
|               | TEL/FAX 0762-86-0433 |